

私は 2014 年(平成 26 年)に現在の会社に入社し、農業農村整備事業における営農計画策定及び費用対効果算定等の業務に従事してきました。技術士は、入社 3 年目の 2016 年(平成 28 年度)に取得することができました。

技術士に関しては、建設コンサルタントとして必須の資格という認識はありましたが、他のメリットはあまりないと考えていました。しかし、

その考えは技術士を取得してから変わっていきました。技術士補の時から参加していた北海道本部青年技術士交流委員会(青技交)で技術士仲間との交流を通じて刺激をもらい、自分もこのような技術士になりたいと思えたことで成長することができたと思います。学術書から知識を吸収することは比較的容易ですが、社会人になってから刺激をもらえる仲間と出会うことはハードルが高いと思います。しかし、技術士は、技術士という共通項を活用することで新たな仲間を作ることができます。世の中の仕組みが著しく変わり、物事を自ら判断して生きていかなければならない現在は、今をともに生きる仲間と出会い、その考え方を吸収することが大切だと思いますので、技術士取得には大きなメリットがあります。

上述の通り、これまではインプットを重視し、自分の成長を促すために技術士を活用してきました。しかし、自分の成長はこれまで得たことを社会に発信していくためにあると思いますので、自分に何ができるのかを考え、今後はアウトプットを重視した活動をしていきたいです。幸いにもこれまでの青技交での活動を通じて、北海道にとどまらず全国に技術士仲間を持つことができましたので、その仲間と一緒に考えていけたらと思います。北海道本部の皆様、今後ともどうぞ宜しくお願い致します。

長内 克真 (おさない かつまさ)

● 農業部門、総合技術監理部門
(農村地域計画、農業土木)

勤務先

株式会社環境保全サイエンス



→次号は、村上弘樹さん(建設部門)

私は群馬県の出身で、1967 年に生まれてから高校卒業までを群馬県で過ごし、その後大学入学で札幌へ移って以来ずっと北海道で暮しています。大学の時に専攻した林産学(木材工学)の研究を続けたいと思い、現在の職場である林産試験場に就職し、それ以来 30 年北海道産木材の高度利用・価値向上を目指した研究業務に従事してきました。

当時、林産試験場は北海道の組織でしたが、平成 22 年に独立行政法人へと移行し現在の体制となりました。独法になったとはいえ道総研の基本理念はそれまでと変わることなく、道民生活の向上と道内産業の振興への貢献であり、公益性の高い職務を担っています。北海道内の木材業界の実情は、比較的小規模な企業が多く自ら研究開発部門を持たない企業がほとんどですが、こうした企業の支援は我々の重要な使命です。企業の技術開発や製品開発に対して、公益性・公平性を保ちつつ協力していかなければならない点に難しさを感じていましたが、平成 28 年に技術士登録を受けた際に身に付けた技術士としての責務・倫理などは、日常の業務遂行の際の考え方や行動における大きな支えとなっています。

私の専門は木材・木質材料の強度に関する分野ですが、例えば同じ樹種の材でも道内の産地の違いによって強度が異なります。そういったデータを単に公表するだけでは、利益を得る者、不利益を被る者を生むだけですが、強度が高い場合はそれを活かし、低い場合はそれを補う方法を考え、総体として道産木材がより高い価値を獲得するような道筋を示すことが自分に課せられた任務と心得て、これからも日々精進して参りたいと思います。

松本 和茂 (まつもと かずしげ)

● 森林部門(林産)

勤務先

(地独)北海道立総合研究機構
林産試験場



→次号は、鈴木昌樹さん(森林部門)